
夢があった二人（小ネタ系）

青木弘樹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢があつた二人（小ネタ系）

【Nコード】

N2016W

【作者名】

青木弘樹

【あらすじ】

ただの小ネタです。気軽にどうぞ。

彼らには夢があった。

夢のためにがむしやりに頑張った。

名前なんざどうでもいいが、一応言っておこう。

柴田ヨウイチ、33歳。そして後輩の浦田ゴロウ、32歳。

二人は頑張った。まわりに馬鹿にされようが頑張った。応援してくれる人も少なからずいた。

十年近く頑張っただろうか。夢にむかって走り続けた。しかし…

結局、夢は叶わなかった。

「なあ、ゴロウ。俺たちは間違っていたのかな？」

「そっすねえ…」

「それとも調子に乗りすぎてたのかな？」

「どうっすかねえ…」

「やっぱり平凡なサラリーマンをしておくべきだったのかな？」

「今となっては…そうかもしれないっすね」

「なあ、ゴロウ」

「はい？」

「こんな狭い世界を飛び出して、ビッグになりたいよな？」

「はあ…」

「どうしたんだゴロウ？あの頃の情熱はどこいつちまったんだよ？」

「…」

「昔はお前、そんなじゃなかったはずだろ！？」

「…」

「なあゴロウ！なんとか言えよ！」

「だって先輩…」

「なんだ？」

「俺ら…今、刑務所の中つすよ」

「そうだったな…」

そう。

二人は強盗を繰り返し、やがて捕まり、いま刑務所の中（狭い世界）だった。

夢は金持ちになること。
それだけだった。

この二人に共感した人がもしいるならば、浜田省吾の「マネー」という歌をオススメします。
いや、何となく…。

・・・おしまい・・・

(後書き)

ありがとうございました。

(^ ^)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2016w/>

夢があった二人（小ネタ系）

2011年10月9日14時52分発行